

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：トマト新品種「ちばさんさん」の半促成栽培法			
<p>[要約] 「ちばさんさん」の半促成栽培では、果房直下の側枝 4 葉を残して摘心し葉数を増やすことで、1 果重を減らすことなく糖度が向上する。若苗を定植すると樹勢は強くなるが増収効果は見込めないため、従来の定植適期苗を利用する。「ハウス桃太郎」に比較して萎れやすいため、4 L/週 /株程度のかん水を行う。</p>			
フリーワード トマト、「ちばさんさん」、高糖度、整枝法、栽培法			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・生産技術部・野菜研究室		
	協力機関 農林総合研究センター・育種研究所・野菜緑化育種研究室		
実施期間	2008 年度～2009 年度		

[目的及び背景]

「ちばさんさん」は千葉県が育成した中玉の新品種である(平成 21 年 2 月品種登録)。機能性成分である β-カロテン、ビタミン C が多く、糖度が高く食味が優れる。「ちばさんさん」の県内での普及を図るため、高糖度で良食味という品種特性を安定的に発揮できる半促成栽培法を開発する。

[成果内容]

- 1 半促成栽培において、果房直下の側枝を 4 葉残して摘心すると、対照の直立整枝法に比べて収量は同等であるが、糖度は上位果房で高くなる(図 1、図 2)。
- 2 半促成栽培において、第 1 花房開花前の若苗を定植すると、従来の定植適期苗(第 1 花房が 1、2 花開花した状態)を定植する場合に比べて、樹勢は強くなるが収量は同等であり、糖度はやや低くなる(図 3、表 1)。したがって、従来の定植適期苗を利用するのがよい。
- 3 「ハウス桃太郎」と比較して根量が少なく、萎れが生じやすい(データ略)。かん水量を 1 L/週 /株とすると、4 L/週 /株の場合と比較して収量や糖度は同等だが 1 果重が小さくなる傾向があるため、4 L/週 /株程度のかん水を行う(表 2)。

[留意事項]

- 1 ネコブセンチュウや根腐萎凋病などの土壌病害虫に対して抵抗性がないため、これらの汚染圃場では抵抗性台木を使用する。
- 2 本成果は半促成栽培でのものであり、抑制栽培には適用できない。

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

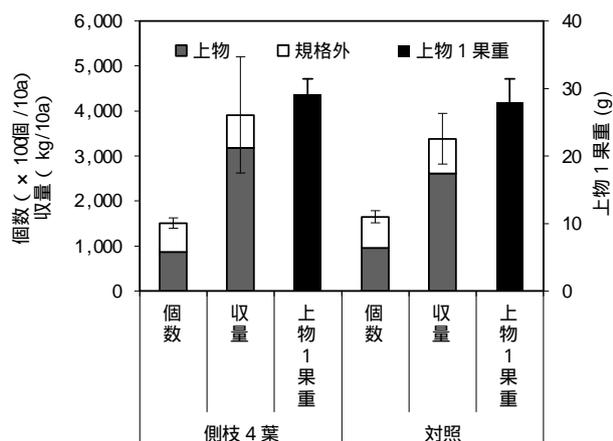


図1 側枝4葉での摘心が「ちばさんさん」の収量に与える影響 (平成22年度、半促成栽培)

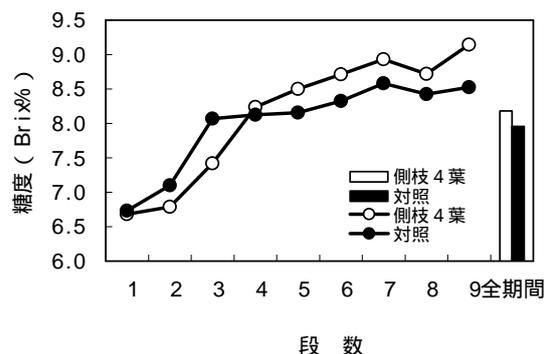


図2 「ちばさんさん」の果房毎における糖度推移 (平成22年度、半促成栽培)

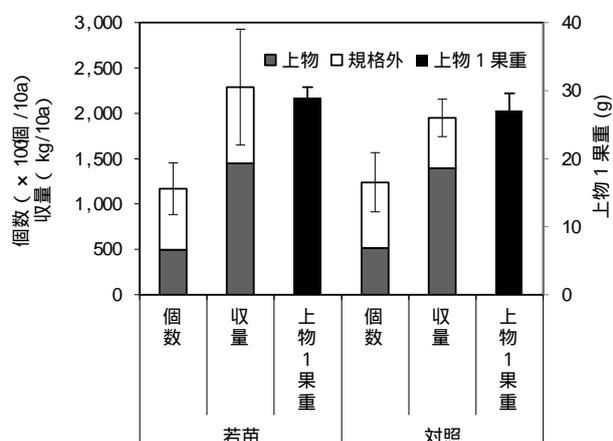


図3 若苗定植が「ちばさんさん」の収量に与える影響 (平成20年度、半促成栽培)

表1 若苗定植が「ちばさんさん」の糖度に与える影響 (平成20年度、半促成栽培)

試験区	糖度 (Brix%)					
	4月上旬		5月上旬		5月下旬	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
若苗	7.5	0.8	9.8	1.0	9.8	1.3
対照	7.5	0.4	10.6	1.7	10.2	0.9

注) 4月上旬は4月3日、8日に2及び3段果房調査、5月上旬は5月2日、5日に5段果房調査、5月下旬は5月20日、23日に8及び9段果房調査、それぞれの調査日に4~5果を測定した

表2 かん水量を異にした「ちばさんさん」の収量及び糖度

かん水量 (L/週/株)	総収量		上物収量		上物1果重 (g/個)	平均糖度 (Brix%)
	個数 (個/10a)	重量 (kg/10a)	個数 (個/10a)	重量 (kg/10a)		
4	134,976	3,213	95,967	2,467	25.7	7.7
2	137,708	3,137	91,793	2,367	25.8	7.9
1	151,402	3,298	101,066	2,519	24.9	8.0
分散分析	NS	NS	NS	NS	NS	NS

注) NSは同一列における分散分析で有意差が認められなかったことを示す

[発表及び関連文献]

- 平成22年度試験研究成果発表会 (野菜部門)

[その他]